科目名	AIプロデュース							年度	2025
英語科目名	AI Produce Skills							学期	後期
学科・学年	ＡＩシステム科　１年次	必／選	選	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	木村悠貴	教員の実務経験		有	実務経験の職種		プランナー		

【科目の目的】

仕事において自身の意見は相手に伝わってこそ意味があるものであるという認識をしっかりと持ち、その重要性について説明ができるようになることを目的とする

【科目の概要】

各授業の前半で具体的なツール(ロジックツリー、ピラミッドストラクチャー)やその概念について説明を行い、後半ではそれらのツールを実際に使って考えを表現する技術を身に着けていく。また、最後にはディベートを通じて他者との意見交換を行い、多角的にものごとを見つめる習慣を養うとともに他者の尊重についても身に着けさせる。

【到達目標】

本科目の到達目標は以下のとおりとする
・他者に自身の主張を説明をする際に人それぞれ背景が違えば考えも違うという前提を理解し、どのようにすれば相手に伝わるかということを常に意識できるようになる
・ロジックツリーやピラミッドストラクチャーなどの具体的なツールを用いて考えを表現することができる

【授業の注意点】

本科目は実習形式をとるため、授業出席、積極性が重要となることをよく理解して受講すること。また、成果物の完成に必要なスキルを有していない場合は、能動的に学習することも必要となる。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は成績評価することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A 基本的な概念の理解	業界や学界での最新の用語や概念にも精通している	用語や概念を深く理解し、それを教えることができる	用語や概念を具体的な例とともに理解している	基本的な用語や概念を知っている	基本的な用語や概念を理解していない
到達目標 B 具体的なツールや手法の適用能力	ツールや手法の最新の知識も持ち、それを活用できる	ツールや手法を複雑な状況で適切に使用できる	ツールや手法を基本的な状況で使用できる	ツールや手法の名前を知っている	ツールや手法の名前を知らない
到達目標 C 論理的思考と分析能力	高度な論理的思考や分析能力を持ち、それを他者に教えることができる	複雑な問題を論理的に分析し、その背後の原理を理解している	中級の問題を論理的に分析できる	簡単な問題を解決するための論理的思考ができる	簡単な問題を解決するための論理的思考もできない
到達目標 D 実際の問題や課題への応用能力	問題の解決策を提案し、実装までのプロセスを理解している	多角的な視点から問題の解決策を提案できる	複数の解決策を提案し、その利点と欠点を理解している	簡単な問題の解決策を提案できる	簡単な問題の解決策も提案できない
到達目標 E 他者とのコミュニケーションスキル	多様な背景を持つ人々とのコミュニケーションが得意	チーム内外でのコミュニケーションが効果的にできる	チーム内での意見交換や情報共有がスムーズにできる	基本的なコミュニケーションスキルがある	基本的なコミュニケーションスキルに欠ける

【教科書】

配布資料

【参考資料】

無し

【成績の評価方法・評価基準】

以下の事項を総合的に評価する。
・課題の提出状況、課題から判断する授業理解度、授業出席率、授業への参加態度

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	AIプロデュース	年度	2025
英語表記	AI Produce Skills	学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	科目オリエンテーション	科目の概要、評価法について理解する	1	科目の概要、評価法	科目の概要、評価法について理解する	3	
2	ＭＥＣＥ・演繹法と帰納法	ＭＥＣＥ（ミーシー）、演繹法と帰納法について説明できる	1	MECEの理解	効果的な活用方法を理解する	2	
			2	演繹法と帰納法	２つの手法の違いを理解する		
			3	ケーススタディ	実際の状況での思考の適用を体験する		
3	Ｗｈａｔツリー（１）	Ｗｈａｔツリーの概要を理解する	1	Whatツリーの基本構造と機能	基本的な構造と機能や利点を理解する	2	
			2	実際の問題や課題への適用	実際の問題や課題を元にしてWhatツリーを作成する	2	
4	Ｗｈａｔツリー（２）	Ｗｈａｔツリーを用いて課題に対する原因を記述できる	3	他の分析ツールとの組み合わせ	他の分析ツールと組み合わせて、問題を多角的に分析する	2	
5	Ｗｈｙツリー（１）	Ｗｈｙツリーの概要を理解する	1	Whyツリーの基本構造と目的	基本的な構造と機能や利点を理解する	2	
			2	実際の問題や課題への適用	実際の問題や課題を元にしてＷｈｙツリーを作成する	2	
6	Ｗｈｙツリー（２）	Ｗｈｙツリーを用いて課題に対する原因を記述できる	3	根本原因分析との関連性	Whyツリーを使用して、実際に問題の根本原因を特定する	2	
7	Ｈｏｗツリー（１）	Ｈｏｗツリーの概要を理解する	1	Howツリーの基本構造と目的	基本的な構造と機能や利点を理解する	2	
			2	実際の問題や課題への適用	実際の問題や課題を元にしてＷｈｙツリーを作成する	2	
8	Ｈｏｗツリー（２）	Ｈｏｗツリーを用いて課題に対する原因を記述できる	3	戦略的思考との関連性	Howツリーを使用して得られた情報や洞察を基に実際の戦略や計画の策定を行う	2	
9	ピラミッドストラクチャー（１）	ピラミッドストラクチャーの概要を理解する	1	基本概念と構造	基本的な構造と機能や利点を理解する	2	
			2	論理的思考との関連性	構築過程での論理的思考の重要性、およびその適用方法を学ぶ	2	
10	ピラミッドストラクチャー（２）	ピラミッドストラクチャーで自身の主張を記述できる	3	実際のケースを通じた練習	フレームワークを使用して情報を整理し、文書やプレゼンテーションを作成する	2	
11	ズームイン・ズームアウト	ズームイン・ズームアウトについて説明できる	1	基本的な概念	概念と利点や制約を学ぶ	2	
			2	適切な使用方法	手法の適切な使い方を学ぶ		
			3	柔軟な思考	柔軟な視点からの分析や評価を習得する		
12	最終課題（１）	課題に対する自身の考えを説明できる	1	論理的思考と情報整理の基盤としてのツールの理解	各ツールの背後にある考え方や原理を理解し、それぞれの適切な使用シチュエーションを把握する	2	
13	最終課題（２）		2	実践を通じたツールの適用能力の養成	各ツールを実際のケーススタディや課題に適用して、情報の整理や分析、主張の構築を行う	2	
14	最終課題（３）						
15	最終課題（４）		3	多様な視点からの問題分析と解決策の提案	複数のツールや手法を組み合わせて使用することで、問題や課題を多様な視点から分析し、より包括的で効果的な解決策を提案する	2	

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等